

# 2017年度 事業計画

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

## (1) 調査研究事業

### ●シギ・チドリ部会

昨年度に続き、経団連自然保護基金の援助を受けることができ、2つの行事を中心に取り組む。一つは11月7～11日に佐賀市で行なわれるアジア湿地シンポジウム。ここではこの20年間の九州におけるシギ・チドリ類の動向についての発表と、日本のシギ・チドリ類の状況に関するサイドイベントを行なう。2018年2月にはロシアのシギ・チドリ類・ヘラシギの専門家を九州に招き、主に九州のシギ・チドリ類関係者との意見交流を通して、日本におけるシギ・チドリ類の保全の方策の方向性を探ることになっている。また9月には、日韓フォーラムに続けて、黄海南西端のヘラシギなどの中継地ルドン(如東)でのバードウォッチングツアーを実施する。

\*予算 170万円

## (2) 保全・再生事業

### ●沖縄の生物多様性

- ・泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録を2018年ドバイでのCOP13で実現できるように、沖縄県の鳥獣保護区の具体的な設定を11月1日までに確定させる。
- ・最近の泡瀬干潟での海藻の大量発生と貝類の死滅の原因解明を進め、対策に取り組む。
- ・大浦湾、辺野古海域での米軍新基地建設を止めさせるために、各団体と連携した取り組みを強化する。
- ・あたらしいリーフレット(泡瀬干潟訴訟の経過、成果等を含む)の作成を進める。

\*予算 10万円

### ●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

- ・地域交流会を2回開催し(小田原6/18,河北潟11/25-26)、全国集会(東京8/20)をFAOのハルト氏(持続可能な農業・主席プログラムオフィサー)を招き開催。
- ・水田決議円卓会議準備会議(ラムネットJ、農水、環境、国交省)及びラムネットJ水田部会を定期開催。
- ・アジア湿地シンポジウムにポスター展示参加。
- ・フィリピン北部カガヤン州の水田での生物調査と交流会開催と、田んぼ10年(RiceBED)プロジ

ェクト活動の普及を図り、国外でのRiceBED参加登録増加をめざす（9-10月）。

・ラムサール条約締約国会議・アジア地域会合（3月、スリランカ）に参加し、田んぼ10年プロジェクト活動の普及を図り、国外でのRiceBED参加登録増加をめざす。

・WEBサイトの内容充実と運用。

・田んぼたより発行（4回）と、メーリングリストの運営。

\*予算 430万円

## ●吉野川河口域の保全活動

PNファンドの事業をベースにして、申請団体のとくしま自然観察の会や専門家らと協力して、吉野川河口域の保全活動に取り組む。具体的には、7月8日に東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ（EAAFP）事務局長スパイク・ミリントン氏を韓国から招聘し、吉野川河口「今」「明日」を考えるフォーラムを開催し、行政を含む様々な立場の方々の参加を得て、多様な情報に基づき吉野川河口域の価値を再認識する機会とする。さらに、複数の公共事業による、複合的影響評価の手法の方向性を検討し、報告書としてまとめ、吉野川河口域の環境がこれ以上劣化しないよう、河口域の保全に継続して取り組むプラットフォームの構築につなげる。

## ●条約湿地 50 から 100 へ

2017年3月24日環境省に提出した「ラムサール条約による湿地の登録と管理についての要望書」の中で条約湿地への登録を要望した17か所の湿地について、引き続き環境省と意見交換を行い、その中から来年のCOP13で条約湿地登録が可能な湿地を絞り込んで、COP13までの登録を確実にするとともに、そのほかの湿地については、COP14以降に登録が実現できるよう引き続き環境省や地元自治体への働きかけを行っていく。

### (3) 普及・啓発事業

## ●湿地のグリーンウェイブ

現在開催中の湿地のグリーンウェイブ2017は、5月末時点で51のイベントが参加し、国連生物多様性の10年日本委員会のグリーンウェイブにも参加登録している。今期のキャンペーン終了後には報告書を作成する。また、次期キャンペーン（GW2018）に向けて広報ツール（リーフレットやグッズなど）を製作し、報告書と合わせて活用しながら次期キャンペーンへのイベント参加及び企業などへの協賛を呼びかけていく。

合わせて、次期キャンペーンでは、イベントだけでなく地域の水辺やその保全に関わる団体をHPにて紹介していくなど、地域と全国を結び湿地保全の主流化を図るための活動となるように取り組んでいく。

\*予算：20万円

## ●にじゅうまる COP3 での活動

生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) の成果である愛知ターゲットの達成のために、国際自然保護連合日本委員会および日本の生物多様性保全をリードする団体が集結して活動している「にじゅうまるプロジェクト」では、CBD の COP と COP の間の年に「にじゅうまるパートナーズ会合 (COP)」を開催している。2018 年 2 月に東京で開催予定の COP3 では、全体会合での事例発表および分科会を主催し、パネル展示等を実施する。

COP2 報告 : <http://www.ramnet-j.org/tambo10/tambo/tambonews/tambo10news05.pdf>

\* 普及啓発のための諸活動の予算 5 万円の中から支出

## (4) 国際協力事業

### ●日韓湿地 NGO の連携

韓国湿地 NGO ネットワーク KWNN がプサン市と交渉して 2017 年 9 月に日韓 NGO 湿地フォーラム+国際湿地 NGO ワークショップを開く準備をしている。この会議の実施に向け、昨年度から KWNN と協力して、企画を議論しており、これを通して、2018 年 10 月に予定されているラムサール条約 COP13 に向けての取り組みを WWN と一緒に準備したい。

### ●WWN (世界湿地ネットワーク)

組織固めと、昨年度から準備してきている NGO 湿地調査と NGO・GO 協力ガイダンスを進め、2017 年 9 月の日韓 NGO 湿地フォーラム+国際湿地 NGO ワークショップにおいて、2018 年 10 月に予定されているラムサール条約 COP13 に向けての取り組みを具体化すべく準備中である。

\* 150 万円 (国際協力事業合計)

## (5) エコトーン・プロジェクト事業、プロジェクト WISE 事業

2017 年度のエコトーン・プロジェクトは、引き続き一般社団法人環境パートナーシップ会議 (EPC) と共同実施し、EPC が HSBC から受けた寄付によって計 4 か所の湿地保全団体を支援する。新たに、生物多様性向上のための湿地の賢明な利用を支援するため、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連連合 (WIJ) とプロジェクト WISE を共同実施し、WIJ が HSBC から受けた寄付によって計 10 か所の湿地保全団体を支援する。

## (6) ネットワーク推進事業

### ●ニュースレター

昨年度と同様に、2017 年度も 4 回程度 (7 月初旬、10 月初旬、1 月初旬、3 月末 (4 月 1 日付け))

発行する。今年度は各地の関連団体や施設などにも積極的に送付して、配布を依頼し、ラムネットJの組織・活動の周知や会員の拡大を図る。

\*予算 20万円